

## 関係者の発言から紐解く巨匠建築家の足跡 F.L.ライトの日本での活動を追って

中田千彦 [宮城大学事業構想学部准教授]

フランク・ロイド・ライトの日本での活動について、関係者のさまざまな発言を集めたそのドキュメント「偉大なるオブセッション：フランク・ロイド・ライト／建築と日本」を制作・監督した森晃一、キャレン・セバンス両氏に、インタビューを収集し記録、編集することの意味について聞いた。

20世紀の最も偉大なアメリカ人建築家と呼ばれるフランク・ロイド・ライトは、1917年から1922年まで日本に住み、10を超える建物の設計をしたことは、多くの建築家が知ることです。そのライトが設計した建物は、自由学園明日館（東京）、旧山邑邸（兵庫）が重要文化財として保存活用され、明治村に帝国ホテルライト館の一部が再現され、今もライト建築を実感することができます。また、東京郊外には、帝国ホテルの元支配人林愛作邸の一部も残存しています。

——ライトの日本での活動に焦点をあてたきっかけはなんですか？

鈴木博之東京大学教授は「ライトの有機的建築のあり方は、日米でライトの設計活動に関わった遠藤新、アントニン・レーモンド、土浦亀城／のぶ夫妻、田上義也、岡見健彦など、著名な建築家の作品や著作を通じて伝えられています。また、ライトの作品に触発された建築家は数えきれず、彼らの建築作品や建築への著作にライトの有機的建築の影響を見ることができます。また、ライト建築の影響は、日本の公共建築に多く見出されることも指摘されています」と語られています。

この3月にDVDで入手できるようになったフランク・ロイド・ライトと日本のドキュメンタリー映画『偉大なるオブセッション：フランク・ロイド・ライト／建築と日本』は、ライトと日本の関わりを語る最初のドキュメ

ンタリー作品です。この作品は、フランク・ロイド・ライト財団アーカイブズでの貴重な調査活動を含めた、日米合同のチームによりなしたもので、これまでに日本語と英語で明らかになっている資料を総合的に検証しつつ、実現したものです。

このチームは、ライト財団で発掘した新資料や、数百を超える未公開写真だけでなく、これまで一般公開されなかった記録映像やスケッチ／設計図を紹介し、日米のライト研究家、建築家たちのインタビューを照査し、真実のライトと日本の関係を浮き彫りにし、ライトの不朽の業績の探求と日本での業績と今日に繋がる影響を紹介しています。

——長編の記録映像編集でのご苦労は？

それでも、130分のドキュメンタリー映画には限界があり、製作過程で実施した100人を超えるインタビューはその一部を紹介するにとどまり、現存する資料もすべてを提供することはできません。製作チームは、ライト建築に学んだ先人たちの未来への願いが記録された貴重な資料を、次世代に引き継ぎ、文化的遺産の本来の価値を失うことなく伝えていきたいと話しています。建築の記憶は、建物の保存や図面や写真での記録とともに、人々の記憶を記録し伝えることも重要です。彼らは、今も、新しい資料の発掘や資料の保管を進めるだけでなく、フランク・ロイド・ライトとその作品に触れた建築家、施主、利用者の声の記録を続けています。その一環として、米国の学校機関であるテンプル大学の学生とともに、オーラルヒストリープロジェクトを進め、帝国ホテルライト館利用者の声を記録し、一般に公開（[www.temple.edu/tuijpod/](http://www.temple.edu/tuijpod/)）しています。このようなプロジェクトが、建築の記憶を継承していく基盤になっているのではないのでしょうか。



DVD 『偉大なるオブセッション：フランク・ロイド・ライト／建築と日本』  
販売元：(株) ツイン

なかた・せんひこ  
1965年生まれ／東京藝術大学卒業／コロンビア大学大学院修了／同大学建築・都市・歴史保存大学院研究員、京都造形芸術大学助教授等を経て2003年に新建築社入社。2006年より現職。